グループワークの様子

令和4年度支え合いマップ取組勉強会

“生活支援相談員流” 支え合いマップ作成のコツ

令和4年7月11日、大船渡市民文化会館（リアスホール）で、「令和4年度支え合いマップ取組勉強会（第1回）」を開催し、県内市町社協の生活支援相談員等20名が参加しました。この研修は、生活支援相談員が地域支援として取り組む支え合いマップ実施後の強化を目指し、支え合いマップ作成後に住民と一緒に「ご近所ふくし」に取り組むためのポイントや、普段の業務で生かせる工夫・コツを学ぶことを目的としたものです。

“生活支援相談員流”支え合いマップとは

前半の釜石市社協菊池亮地域福祉課長による講義では、生活支援相談員の業務に生かす支え合いマップについて解説されました。また、事例発表では、菊池課長と大船渡市社協生活支援相談員がマップ作成後の振り返り演習を行い、住民に聴取する際の深堀りポイント（より具体的な状況を明らかにするための質問方法）や聴取の展開方法（聞き逃してはいけないキーワード）について確認し、参加者はそのやりとりを通して学びを深めました。

釜石市社協　菊池亮 地域福祉課長

“生活支援相談員流”支え合いマップのポイント

継続しやすさと業務への生かしやすさを重視

- ◆住民同士のつながり等を地図に書き込む
- ◆生活支援相談員の活動に生かせそうな関係性や「場」を探す

❶住民にご近所のことを教えてもらおう！
- どんな人が住んでいるのか
- どんなお付き合いがあるか
- どんなたまり場があるのか（サロン、ラジオ体操など）

❷情報を生かして「地域」と「生活支援相談員」が協力！
- 地域の見守り力が向上する
- “ネット”を“ワーク”させる（住民同士のつながりや関係性を機能させる）
- 住民と支援者の伴走による地域づくりを目指す

菊池課長講義より抜粋

マップをツールに住民主体の活動をサポート

支え合いマップ作成後は、職場に持ち帰って上司や同僚を交えた振り返りを行い、2回目の聴取でさらに聴き取りたい項目を確認し、住民へのアプローチ方法を探ることが重要です。後半のグループワークでは、その振り返りの練習として、各社協で事前に作成した支え合いマップを基に、生活支援相談員が実践出来そうなアプローチの方法について「作戦会議」を行いました。住民同士のつながりや資源に着目してみると、「若者世帯が多い」「ペットを飼っている世帯が多い」「住民を支えるお世話やきがいる」「フリースペースにベンチがある」といった地域の様子が明らかになりました。そこから、「世帯や地域の特徴を生かした活動が出来そう」「空地の所有者を確認して協力を呼びかけてみては？」「集会場に来ている住民のつながりを深堀してみよう」等、次の展開で確認するポイントについて、参加者は熱心に話し合いました。

岩手県立大学菅野道生准教授は、「マップをツールにして住民と会話をする中で、社協は地域を知り、住民自身も地域を知っていく。互いにキャッチボールをしながら進める中で、住民の『こういうことをしたい』という思いをつかみ、相談員は『住民と一緒にできること』を考える。マップはこのようにして住民主体の活動をサポートするためのツールである」と全体をまとめました。

参加者からは、「課題や困り事に限らず、住民同士のつながりを確認し、住民と一緒に社協ができることを探る視点が大事だと分かった」「深堀りするポイントや聴取の方法について具体的に学ぶことができて良かった」等の感想が寄せられ、支え合いマップを普段の業務に生かすための学びや理解を深めました。

参加者は、第2回開催の10月4日までに、グループワークで確認した実践内容を各社協で実施し、その報告を行う予定です。

岩手県立大学社会福祉学部
菅野道生 准教授